

ある日の脳外科外来へN島から62才の男性Aさんが妻に連れられてやってきた。聞くと1週間前に突然ひどい頭痛がして起き上がれず、寝込んでいたとのこと。早く医者に診てもらいたかったが、立ち上がることもできず、来ることができなかった。食事もとれず、食べてももどし、最悪な状態だったと言う。

診察したが、とくに異常は認められない。エピソードから少し首が硬いか、項部強直かどうかの疑いが残った。もちろん、くも膜下出血がもっとも考えられるわけで、まず頭部CTを撮ることにした。異常は認められない。少量のくも膜下出血が残っていないかと目を皿にして見たが、異常とは思えなかった。当時はまだMRIがなく、今では禁忌となった腰椎穿刺をすることとした。

外来のベッドに横になってもらい、海老のように丸くなり、背中を突き出す体位をとってもらった。腰椎穿刺で髄液を採取すると黄褐色だった。確認だけで髄液の採取は行わず、髄液検査を終わり、外来のベッドで安静に横になってもらい、本人と妻に説明した。

入院の準備ができるまで次の外来患者さんを診ることとした。となりの診察室で外来患者さんを診ていると、Aさんが突然うーっとうめき声をあげた。そばにいたナースが「先生、呼吸停止です！」

ただちに気管内挿管をし、病室に運んでレスピレータにつないだ。瞳孔は散大しており、脳動脈瘤の再破裂と思われた。病室に妻をはじめとする家族に入っただき説明した。

「くも膜下出血と思われます。原因はおそらく脳動脈瘤の破裂で、最初の破裂が1週間前。そして先ほど2回目の破裂が起こったものと思われます。今はまったく意識がなく、自分で呼吸することもできず、人工呼吸器を取り付けました。今のところ血圧は正常ですが、危篤状態といえます。早いうちに自分で呼吸ができるようになるとか、目を開けて意識が戻るとか、回復が見られないと助かる見込みはかなり厳しいといえます」

これに対し、ご家族はだまっただまめで、重苦しい数分間が経過しました。わたしの言葉から90%以上の確率でもうだめなんだと思ったことでしょうか。わたしもう助からないだろうと思いつつ、匙を投げるなども自分に言い聞かせていました。

血圧の管理など細かく担当看護師と話し合っただけで変化があれば深夜でも知らせるように指示して病院を離れました。

翌日のことです。驚くことに自発呼吸が戻り、意識レベルも改善。開眼がみられるようになりました。そこで頭部CTを撮りました。思った通りくも膜下出血で、画像から前交通動脈瘤の破裂と思われました。続けて血管撮影を行いました。このときには既に手術しようと考えていました。

前向きの前交通動脈瘤8mm大を認めました。この時点で意識レベルは30点。しっかりと自発呼吸で午後から手術と決め、家族の同意もいただきました。予定通り開頭による破裂脳動脈瘤ネッククリッピング術、脳槽ドレナージを行い、術後一時は脳血管攣縮のため意識レベルが低下しましたが、それも回復しリハビリの後、まったく後遺症なく退院となりました。

このAさんのくも膜下出血の経験はわたしにとって貴重な経験となり、動脈瘤が破裂して呼吸が止まるまでに状態が悪化しても、次第によみがえる場合があるということはいくらもあきらめない医療をわたしに教えてくれました。まただからこそ、ここは無理強いせず、命にしがみつかない医療も大切だと思うようになったのです。

入院中のある日の午後、Aさんがわたしに言いました。

「先生、先生がわたしの家族にもうだめだと言っていたのを聞きました。なぜかあのときわたしは病室の天井から先生や家族そして寝たきりになっている自分を見下ろして見ました。先生は動脈瘤が2回破裂したこと、自分で呼吸することすらできなくなっていること、まず助かる見込みはないだろうと言っていました。全部聞こえていました。でもそれを伝えることがわたしにはできませんでした」

「そして、三途の川が見え、向こう岸に亡くなった父や母がいました。お前はまだ来るな、私たちのことは心配要らないからまだまだそちらで生きていなさいと言われました。いろいろな花が咲いていて、それはそれは楽しそうに見えました」

これを聴いて大変なショックでした。後から家族に聞いたんだろうとか、いろいろと考えてはみましたが、全身麻酔の間も覚醒している患者さんがいると聞きますし、そのときからどんなに意識レベルが悪い患者さんでもベッドのそばで病状などのおはなしはしないようにしています。

さて、AさんがN島へ帰ってからのこと。狭い島のことです。脳に動脈瘤があると破裂し、多くの場合命が助からないそう。しかし病院で検査すれば破れていないうちに見つけてくれ、破れないうちに手術することができる。島の人口は約400名。あつという間にみんなの知るごととなりました。

Aさんが退院して10日後のこと。外来を始めようと診察室へ行ってみると、あふれんばかりの人が待っています。事務員が私のところへ来て、

「先生、N島から初診の患者さんが26名来ています。みなさん動脈瘤があるかどうか調べてほしいとのことです」

=====

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください。

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

Salud（サルー）とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です
同僚や友人ご家族に「Salud!えひめ」をぜひご紹介ください。

全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部

〒790-8546 松山市千舟町4-6-3 アヴァンサ千舟 1階

TEL 089-947-2100（代表）

ホームページ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>

▼配信停止を希望される方はこちらから

https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do

▼登録情報を変更されたい方はこちらから

https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do

※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。

=====